

ネットでの情報収集の落とし穴

選択的接触・確認バイアス・
正常性バイアス・チャンバー現象

大人の情報モラル 2024年7月

選択的接触

- ▶ ネットで情報を集めるに際して、ネット上の情報量が膨大であるため、すべての情報を網羅できない。
そのため接する情報を自分自身で選択しなければならず、結果的に偏った情報を集めることになる。
- ▶ 噂の流布量 = 話題の重要さ × 状況の曖昧さ

確証バイアス

- ▶ 確証バイアス(かくしょうバイアス、英: confirmation bias)とは、認知心理学や社会心理学における用語で、仮説や信念を検証する際にそれを支持する情報ばかりを集め、反証する情報を無視または集めようとしない傾向のこと。認知バイアスの一種。また、その結果として稀な事象の起こる確率を過大評価しがちであることも知られている。

ウィキペディア抜粋

- ▶ 確証バイアスとは、自分の意見や価値観に一致する情報ばかりを集め、それらに反する情報を無視するという思考の偏りである。

正常性バイアス

- ▶ 認知バイアスの一種。社会心理学、災害心理学などで使用されている心理学用語で、自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価したりしてしまう人の特性のこと。
- ▶ 自然災害や火事、事故、事件などといった自分にとって何らかの被害が予想される状況下にあっても、それを正常な日常生活の延長上の出来事として捉えてしまい、都合の悪い情報を無視したり、「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」「まだ大丈夫」などと過小評価するなどして、逃げ遅れの原因となる。「正常化の偏見」、「恒常性バイアス」とも言う。

ウィキペディア抜粋

閉じたコミュニティのエコーチェンバー効果

- ▶ 「エコーチェンバー効果」とは、エコーチェンバーのような閉じたコミュニティの内部で、誰と話しても自分と同じ意見しか返って来ないような人々の間でコミュニケーションが行われ、同じ意見がどこまでも反復されることで、特定の情報・アイデア・信念などが増幅・強化される状況のメタファー(隠喩)となっている。
- ▶ この「エコーチェンバー」の内部では、「エコーチェンバー」内の「公式見解」には疑問が一切投げかけられず、増幅・強化されて反響し続ける一方で、それと異なったり対立したりする見解は検閲・禁止されるか、そこまでならないとしても目立たない形でしか提示されず、すぐにかき消されてしまう。そうするうち、たとえエコーチェンバーの外から見た場合にどんなにおかしいことでも、それが正しいことだとみんなが信じてしまう。

ウィキペディア抜粋

- ▶ 確証バイアスに無自覚でいると、「エコーチェンバー」に置かれることにもなりやすい。

ネットでの情報収集の落とし穴の回避

- ▶ ネットでの情報収集の特性を理解する。
 - ・選択的接触
 - ・確証バイアス
 - ・正常性バイアス
 - ・エコーチェンバー効果
- ▶ 情報の出所をできるだけ確認するようにする。
- ▶ 高度に専門的な内容の場合は、専門組織が発表している情報を確認する。
- ▶ 災害情報などは公的機関の発表を必ず確認する。
- ▶ 出所の分からない情報を拡散しない。
- ▶ 閉じたコミュニティの中では偏った物の見方が定着しやすく、かつ、それが強化され一般からはかけ離れて行ってしまう。多数のコミュニティの意見に積極的に触れるようにする。